

# 茨木市総合戦略

## 平成 28 年度進捗状況

茨 木 市

平成 30 年 3 月

## 目次

1	総合戦略進捗状況について	1
2	平成28年度進捗状況管理結果	2
3	総合戦略進捗状況管理シートの見方	3
4	総合戦略進捗状況管理シート	
	・基本目標 1 若い世代に選ばれるまち	4
	施策の方向性 1-1 就職を機に転出する世代を引き留める	
	施策の方向性 1-2 子育て・ファミリー層の居住地選択における優位性をいかし、さらに伸ばす	
	施策の方向性 1-3 大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組	
	・基本目標 2 出産・子育てを応援するまち	8
	施策の方向性 2-1 心理的・経済的に安心して出産、子育てできる環境の整備	
	施策の方向性 2-2 仕事と子育てを両立することのできる子育て支援	
	施策の方向性 2-3 次代の親となる若者が子どもをもち、育てるための意識啓発	
	・基本目標 3 高齢者がいきいき活躍できるまち	12
	施策の方向性 3-1 高齢者の居場所と出番の創出	
	施策の方向性 3-2 高齢者の地域・経済での活躍	
	施策の方向性 3-3 地域で自立した生活を元気に送り続ける	
	・基本目標 4 魅力と活力あふれるまち	16
	施策の方向性 4-1 人口動態を支える魅力と機能を備えた拠点の形成	
	施策の方向性 4-2 大学・研究機関が多く立地しているというポテンシャルを最大限に活用	
	施策の方向性 4-3 彩都地域における産業集積の促進	
	施策の方向性 4-4 空き家や公共施設更新に伴う取組	
	施策の方向性 4-5 公共交通をはじめとした交通環境の整備	
	施策の方向性 4-6 地域特性をいかした産業施策と雇用促進	
	施策の方向性 4-7 魅力発信の強化	

•基本目標 5 個性・資源をいかした北部地域の活性化……………	24
施策の方向性 5-1 魅力発信機能の強化	
施策の方向性 5-2 交流人口獲得に向けた取り組み	
施策の方向性 5-3 6次産業化や里山的景観活用などの取組	
•基本目標 6 安全安心にいつまでも暮らせるまち……………	28
施策の方向性 6-1 安心して子育てできるまちの推進	
施策の方向性 6-2 災害に備える	
施策の方向性 6-3 消防・救急・医療体制の充実	

## 1 総合戦略進捗状況について

本市では、平成 28 年 2 月 29 日に「茨木市人口ビジョン」及び「茨木市総合戦略」を策定しました。

総合戦略では、茨木市人口ビジョンにおける人口展望の達成に向けて、平成 27 年度から今後 5 年間に取り組むための 6 つの基本目標をはじめ、それを構成する 22 の「施策の方向性」や「主な取組」などを設定しています。

総合戦略の進捗状況については、基本目標ごとに設定した数値目標や施策の方向性ごとに設定した重要業績評価指標（KPI）等の達成度を検証し、改善を行うことが求められています。

そこで、本市では施策の方向性ごとに外部有識者の意見も踏まえながら、進捗状況管理シートを作成しました。

なお、進捗状況管理シートの作成に当たっては、総合戦略と第 5 次茨木市総合計画重点プランが密接に関係していることから、総合計画の進行状況の評価を行う「施策評価」と連携させるとともに、改善を行う仕組みとしては、総合計画における実施計画において行うこととしています。

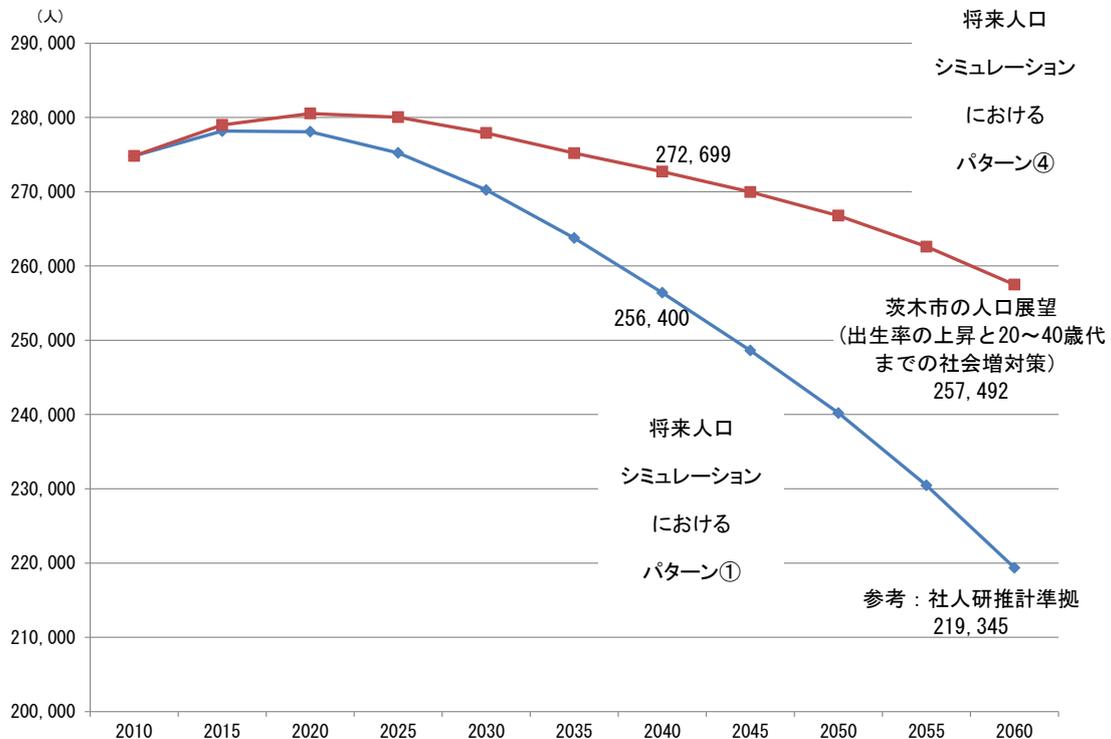


図 茨木市の人口展望

（資料：茨木市人口ビジョン）

## 2 平成 28 年度進捗状況管理結果

総合戦略の 22 の施策の方向性における、進捗状況は下表のとおりです。なお、進捗状況における A～D の意味は次のとおりです。

### 【進捗状況】

- A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している。
- B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している。
- C 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行にやや遅れが生じている。
- D 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行に大幅な遅れが生じている。

基本目標（総合戦略）	施策の方向性の進捗状況				施策の方向性の数
	A	B	C	D	
1 若い世代に選ばれるまち	1	2	0	0	3
2 出産・子育てを応援するまち	0	3	0	0	3
3 高齢者がいきいき活躍できるまち	1	2	0	0	3
4 魅力と活力あふれるまち	3	4	0	0	7
5 個性・資源をいかした北部地域の活性化	1	2	0	0	3
6 安全安心にいつまでも暮らせるまち	1	2	0	0	3

### 3 総合進捗状況管理シートの見方

総合戦略進捗状況管理シートの構成と見方は次のとおりです。

平成27年度総合戦略進捗状況					
総合戦略進捗状況管理シート（基本情報）					
1	基本目標	1	総合戦略の各基本目標に設定している、施策パッケージの施策の方向性ごとに、進捗状況管理シートを作成しています。		
2	施策の方向性	1-1	各施策の方向性に位置づけられる主な取組を記載しています。		
3	主な取組	1-1-1	大学生の創出を阻み留める取組		
		1-1-2			
		1-1-3			
		1-1-4	就労支援（インターンシップ）		
4	KPI（重要業績評価指標）	KPI（重要業績評価指標）		基準	H27
					目標
		1-1-a	奨学金利子補給が卒業生に及ぶ（住み続けられる）		H31
		1-1-b	就労支援（インターンシップ）		
5	H27の取組の進捗状況	<p>各方向性における評価と平成27年度に行った主な取組の成果と課題を記載しています。</p> <p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している</li> <li>B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している</li> <li>C 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行にやや遅れが生じている</li> <li>D 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行に大幅な遅れが生じている</li> </ul>			
6	今後の方向性	各施策の方向性における今後の方向性を記載しています。			
7	外部有識者からの意見	<p>各施策の方向性ごとに、外部有識者からの意見を記載しています。</p> <p>・創業支援に力を入れるなら、大学のビジネスプランコンテストに参加するなど、市の創業支援事業をもっとPRをすれば、一層の広がりが出てくるのではないかと考えている。</p> <p>・就労支援フェアに出ていない企業についても、知ってもらえる機会を考えてみてはどうか。</p> <p>・起業に興味がある学生は多いが、一方で、在学中に融資を受けるリスクを恐るため、起業することは考えていない。</p> <p>・茨木市では、女性起業家支援に取り組んでいるので、女性起業家支援に取り組む。</p> <p>・西宮市では、就労支援フェアを実施している。参考にしてみようか。</p> <p>・学生がどれだけ市内企業に就職しているかをKPIにしてみるといいかもしれない。</p>			

## 基本目標 1

若い世代に選ばれるまち

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち				
2	方向性	1-1	就職を機に転出する世代を引き留める				
3	主な取組	1-1-1	大学生の転出を引き留める取組				
		1-1-2	新規開業者の創業促進と成長支援				
		1-1-3	産学連携に取り組みやすい環境づくり				
		1-1-4	就労支援フェア等の開催				
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準	H28	目標	
		1-1-a	奨学金利子補給が茨木市に住む（住み続ける）インセンティブになった人	0人 未実施	190人	250人	H31
		1-1-b	就労支援フェアの来場者数	384人 H26	310人	440人	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している				
			<p>大学生の転出を引き止める取組として行った「奨学金利子補給事業」について、H27年度の利用者が125人に対し、H28年度は190人と利用者が増加しており、また当該事業の利用者の約8割が本市に住み続けるインセンティブになると回答していることから、一定の成果が出ていると考えられる。</p> <p>また、子育て世代向け就労支援フェアは、事業内容を面接会から相談会に変更したことにより利用者の増加が図られたが、面接会を中心とする一般向け就労支援フェアについては、雇用情勢の影響もあり、参加者が減少した。</p> <p>さらに、起業に対する学生の意識やニーズを把握するため、市内大学との情報交換を行った。</p>				
6	今後の 方向性	<p>奨学金利子補給事業は、より多くの若者に活用してもらうため、周知を工夫する。</p> <p>また、就労支援については、就職イベントの開催時期変更により参加対象者を拡大するとともに、関係機関と連携し、求職者に対するより一層の情報提供に努める。</p> <p>さらに、若者に特化した起業支援として、学生向けセミナーの開催を行うとともに、起業に対する支援策の拡充について検討する。</p>					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生を引き留める取組として実施している「奨学金利子補給事業」は、市内大学生や在住者に対して、ターゲットに適した周知活動を行うことが必要である。特にSNSで情報発信を行うことで、若者は情報を掴みやすくなる。</li> <li>・就労フェアの参加者が減少傾向にある要因については、少子化による生産年齢人口の減や都市部における有効求人倍率が上がっている等の外部要因が考えられるが、大学生を引き留めるために必要な就労支援のアプローチ方法を考えること。</li> <li>・就職フェアは金融機関等も実施しているため、協力しながら実施を検討してみるのも一つ方法である。</li> </ul>					

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち						
2	方向性	1-2	子育て・ファミリー層の居住地選択における優位性をいかし、さらに伸ばす						
3	主な取組	1-2-1	保幼小中連携の推進						
		1-2-2	市立幼稚園の子育て支援、保育所の地域開放事業の推進						
		1-2-3	学力・体力向上3ヵ年計画「ジャンプアッププラン28」の推進						
		1-2-4	ICTを活用した教育環境の充実						
		1-2-5	子どもの居場所の確保						
		1-2-6	児童・生徒の安全対策						
		1-2-7	地域の安全確保						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28		目標	
		1-2-a	地域子育て支援拠点（地域子育て支援センター、つどいの広場）実施箇所・受入可能人数	127,869人	H27	146,215人	169,185人	H31	
				20ヵ所	H27	22ヵ所	27ヵ所	H31	
		1-2-b	全国学力・学習状況調査（小学校）国語・算数の平均正答率	1.043	H26-H27の平均	1.032	上昇	H31	
				ゆめ力	14.160	H26-H27の平均	14.11	ゆめ力 上昇	H31
				自自力	14.360	H26-H27の平均	14.23	自自力 上昇	H31
				つながり力	13.710	H26-H27の平均	13.76	つながり力 上昇	H31
学び力	12.520			H26-H27の平均	12.50	学び力 上昇	H31		
5	H28の主な取組の成果と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
		<p>H28年度はつどいの広場が1か所開設したことにより、地域子育て支援拠点数は目標に向け順調に推移しているが、拠点利用者数は、146,000人程度となっており、その要因としては、各地域における就学前児童数の年齢層のバラつきやこれまで利用されていた方が、保育所等への入所が決定するなどにより、拠点を利用しなくなったことなどが考えられる。また、H27から引き続き、保育所・幼稚園の園庭等を地域に開放し、子育て相談を実施することで、在宅子育て家庭や地域住民等との相互交流を深めるとともに、在宅子育て家庭が身近な場所で気軽に相談できる機会を提供した。</p> <p>学力・学習状況調査における平均正答率については、平成28年度は小学校では下がったが、中学校では向上している。小中学校ともに、学力向上プラン開始年度から9年間の傾向でみると、平均正答率は向上し、学力低位層の割合が減少し、高位層の割合が増加する傾向にあり、児童・生徒の学力は向上している。</p>							
6	今後の方向性	<p>地域子育て支援拠点の更なる増加をめざし、事業者募集における募集要項・募集スケジュールの見直しを行い、多くの事業者が参加できるようにする。</p> <p>また、学習指導要領にともなう外国語教育について、第4次3ヵ年計画茨木っ子グローイングアッププランに基づき、英語で遊ぶデーの実施や保育所・幼稚園と小学校の学校生活の違いに適応するため「保幼小連携カリキュラム」に基づく取組を推進する。</p>							
7	外部有識者からの意見	<p>・「こどもの貧困」について、今後の方向性に記載してみはどうか。</p>							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち					
2	方向性	1-3	大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組					
3	主な取組	1-3-1	地域・大学の連携支援					
		1-3-2	産学連携スタートアップ事業の促進					
		1-3-3	大学の人材と地域課題をマッチングさせる仕組み・場の創出					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		1-3-a	提案公募型連携事業数（学生）	0件	未実施	5件	3件	H31
		1-3-b	地域・社会活動に参加する学生の割合	7.9%	H27	-	10.0%	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している					
			H28年度は、引き続き大学との連携を強化するため、協定を締結している大学と協議を行い、プラットフォームの構築を行った。また、学生が地域の活性化・課題解決に向け取り組む事業に対して補助を行う提案公募型補助事業(いばらき・大学連携事業)を実施し、5件の事業を採択し、学生による地域貢献が行われた。					
6	今後の 方向性	<p>新たな大学との連携を強化するために、引き続き協議の場を設けるほか、活動人口の増加をめざし、DIY(自分がやる)、リノベーション(手を加えて価値を高める)を切り口に、自分達でまちの価値を高めるまちづくりを進める「リノベのいばらき」プロジェクトを実施を検討する。</p> <p>また、引き続き、学生の地域活動や新たな補助対象者として、市内大学が地域の活性化・課題に対して補助が行えるよう提案応募型補助事業(いばらき・大学連携事業)を実施し、H28年度に構築した地域、大学、行政の出会い、交流の促進を図るための「いばまちボード」の運用を開始することで、新たな出会い・つながりを創出する。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案応募型補助事業については、学生のまちの愛着心を育むことが最終目標であるため、市に愛着を持つ取組の実施が必要ではないか。クラブの延長線上で実施する取組は、愛着心はわからない。</li> <li>・学生がいばまちボードの利用を進めるためには、学生の自由度が必要。行政が投稿内容の審査を行う場合、申請件数が限定的になると思われる。</li> <li>・活動した人が茨木市に定着することを想定しながら、事業展開を図ること。</li> <li>・大学生及び若者から、茨木市に住みたいと思えるかについて意見を聞くこと。</li> <li>・大学生が卒業後、茨木市を居住選択地の候補にあげてくれる、または地域の人が学生を引き留めてくれるような仕掛けづくりを意識すること。</li> </ul>						

## 基本目標 2

出産・子育てを応援するまち

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち					
2	方向性	2-1	心理的・経済的に安心して出産、子育てできる環境の整備					
3	主な取組	2-1-1	母子保健事業の推進	2-1-8	各種支援制度の充実			
		2-1-2	就学前教育・保育の充実	2-1-9	ひとり親家庭への支援の推進			
		2-1-3	子どもの健康の保持、増進	2-1-10	就学・修学に伴う支援			
		2-1-4	地域における子育て支援	2-1-11	子ども・若者自立支援の推進			
		2-1-5	障害のある子どもをもつ家庭への支援の充実	2-1-12	学習・生活支援の推進			
		2-1-6	子どもの居場所の提供					
		2-1-7	学童保育の充実					
4	KPI (重要行政 評価指標)	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		2-1-a	ファミリー・サポート・センター活動人数	6,163人日	H27見込	4,290人日	6,310人日	H31
		2-1-b	利用者支援事業実施	0カ所	未実施	1カ所	5カ所	H31
5	H28の主な取組の成果と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>仕事と家庭の両立を支援し、子育てしやすい環境を作ることを目的に、会員同士が助け合う組織である「ファミリー・サポート・センター」において、活動人数が減少しているが、子育て支援総合センターまで距離的に来所困難な家庭向けに、出張登録会を開催するとともに、会員登録後、すぐに援助活動が行えるよう、活動前に必須研修である安全研修の実施方法を見直した。</p> <p>また、子育て家庭の個別ニーズに応じた情報提供を行うため、子育て支援施設やサービスを適切に選択し、円滑に利用することができるよう子育て総合案内(利用者支援事業)を行う特定型から、利用者支援に加えて地域連携まで行う基本型に切り替え、地域で子育て支援に取り組んでいる組織・団体等との連携に努めた。</p> <p>子ども・若者自立支援については、民間支援機関に子ども・若者自立支援センター業務を委託し、ひきこもり等の当事者とその保護者への個別専門支援を実施することにより、自立度の段階的な改善につながった。</p>					
6	今後の方向性	<p>ファミリー・サポート・センターの会員数、活動件数の増加に向けて、広報誌への記載について募集地域の明示の工夫を行う。</p> <p>また、地域における子育て支援については、親子が気軽に集い、交流できる「つどいの広場」を新たに2カ所開設し、安心して子育てできる環境整備を進める。</p> <p>子ども・若者自立支援については、子ども・若者自立支援センター利用料の無料対象者を拡大し、より多くの方が子ども・若者自立支援センターを利用できるように対応する。また中学校卒業後や高校中退後に支援が途切れることがないよう、学校在学中に外部支援機関とつながる方策を検討する。</p>						
7	外部有識者からの意見	<p>・子ども・若者自立支援の利用について、所得区分における補助対象者の審査方法について記載してはどうか。</p>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち					
2	方向性	2-2	仕事と子育てを両立することのできる子育て支援					
3	主な取組	2-2-1	特別保育の充実					
		2-2-2	私立保育所等の保育環境の充実					
		2-2-3	学童保育の充実					
		2-2-4	働き続けられる職場づくりの推進					
		2-2-5	再就職への支援					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		2-2-a	待機児童数（認定こども園、保育所、小規模保育）	186人	H27	147人	0人	H31
		2-2-b	学童保育の待機児童数	25人	H27	14人	0人	H31
5	H28の主な取組の成果と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>保育所等5カ所の建替に伴う定員増(定員170人増)、小規模保育事業3カ所の創設(定員56人増)、事業所内保育事業1カ所の創設(定員19人増)、公立幼稚園の認定こども園化(定員120人)及び待機児童保育室みらいの創設(定員40人)などにより計405人分の定員増を行った結果、平成29年4月1日における待機児童数は58人となり、H28年度の待機児童数147人から減少した。</p> <p>また、学童保育については、H28年度は、9学童保育室の設備改修を実施し、定員増(定員111人増)を図った結果、H27年(H28.4時点)の入室に向けた申請者数とH28年度当初に比較すると、214名の入室申請者増があったものの、待機児童数は減少した。</p> <p>また、保護者が仕事や病気などで一時的に家庭での養育が困難となった場合などに利用できる「子育て短期支援事業」では、H27年度に検討を行った「トワイライトステイ」の利用時における施設等への送迎を実施した。</p> <p>勤労者の健康で豊かな働き方を支援し、市内事業所における両立支援やワーク・ライフ・バランスへの取組を推進するため、新規事業を検討した。</p> <p>子育て世代の就労を促進するため、就労支援フェアの内容を見直し、就職や起業などの相談を中心とするイベントに変更した。</p>					
6	今後の方向性	<p>待機児童数を受け入れる環境を整えるため、認定こども園の新設整備については、土地の確保が難しく、事業者の応募がないことから公募方法等の見直し等について検討する。</p> <p>学童保育については、平成29年度も2学童保育室の建て替えを実施し、その他学校及び教育委員会と調整し、必要に応じて教室借用に努める。また、利用料改訂の審議と合わせ、長期休業中のみの利用も検討する。</p> <p>働きやすい職場づくりの促進を図るため、事業所の認定制度を創設するとともに、事業所に対する新たなインセンティブを検討する。</p>						
7	外部有識者からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トワイライト施設の利用状況を確認し、効果を記載すること。</li> <li>・今後の方向性における学童保育の「長期休業中のみの利用の検討」については行っていないと思われる。</li> </ul>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち				
2	方向性	2-3	次代の親となる若者が子どもをもち、育てるための意識啓発				
3	主な取組	2-3-1	子育て・子育て支援等の意識啓発				
		2-3-2	「いばらき結婚・子育て応援団」の結成				
		2-3-3	次世代育成支援に関する意識啓発				
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準	H28	目標	
		2-3-a	「人生のパートナーを得たい」「子どもをもち、育てたい」と思える率	未実施	63%	上昇	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している				
			<p>H27年度から引き続き、子育て中の親子と学生が子育てをテーマにふれあう「赤ちゃん先生」を、市内公立高校5校で実施し、子育て中の親が、現在実践している自分の子育て経験を、次代の親となる高校生に語ることで、達成感を持つと同時に、高校生が自分の育ちを振り返るきっかけにもなり、将来の子育てへの関心にも繋がった。</p> <p>また、少子化・結婚・子育てをめぐる社会の変化やお金の面からライフプランを考える講義を藍野大学と連携し、実施した。</p>				
6	今後の 方向性	今後、「赤ちゃん先生」を中学生に対しても実施し、命の大切さや子育ての楽しさ、大変さを学ぶことで、「子どもをもち、育てたい」と思える方の増加を図る。					
7	外部有識者 からの意見	特になし。					

## 基本目標 3

高齢者がいきいき活躍できるまち

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち						
2	方向性	3-1	高齢者の居場所と出番の創出						
3	主な取組	3-1-1	高齢者のいきがい推進						
		3-1-2	高齢者関係団体の育成・支援						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）			基準		H28	目標	
		3-1-a	多世代交流センターの整備		0カ所	未実施	5カ所	5カ所	H31
		3-1-b	シニアいきいき活動ポイント事業受入施設数		57カ所	H27	79カ所	100カ所	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している						
			多世代交流センターにおいて、高齢者が保有する知識・技術を子ども世代に伝承することを目的として実施している「ふれあい体験学習」については、平成28年度の参加者数は3,840人であり、平成27年度に比べて1,663人増加するなど、高齢者と子どもとの世代間交流が促進されることで、高齢者のいきがい推進につながっている。						
6	今後の 方向性	次年度以降も、広報誌等を活用して、ふれあい体験学習の参加を促進する。 高齢者が指定の施設で活動するとポイントがたまり、ポイントに応じて、活動支援金に変更できるシニアいきいき活動ポイント事業については、平成29年度は、登録者数700人、受入施設数90カ所を目指し、社会貢献によるいきがいづくりや自身の介護予防の促進を図る。							
7	外部有識者 からの意見	・従来の多世代交流センターを老人福祉センターから切り替えている旨を記載してみてもどうか。							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち			
2	方向性	3-2	高齢者の地域・経済での活躍			
3	主な取組	3-2-1	高齢者を対象とした起業・創業の支援			
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準	H28	目標
		3-2-a	高齢者の起業・創業件数（いきがいワーカーズ）	0件 未実施	2件	8件 H31累計
		3-2-b	シルバー人材センターや老人クラブの登録人数	9,143人 H27	8,893人	増加 H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している			
			<p>高齢者活動支援センターシニアプラザいばらきに、いきがいワーカーズ事務局を設置し、毎週金曜日に事業立ち上げ相談日を設け、相談延べ件数22件、2団体の組織化及び事業立ち上げ補助を行った。</p> <p>※いきがいワーカーズは高齢者で構成された団体に対して、高齢者等を地域で支える事業を開始するための事業企画づくりや立ち上げ資金等を支援する事業</p>			
6	今後の 方向性	<p>いきがいワーカーズ事務局において、引き続き高齢者の起業・創業の支援を行い、平成27年度及び平成28年度の事業立ち上げ団体については、全て介護予防事業グループであったため、平成29年度は高齢者の生活を向上する生活支援サービス等に取り組む団体について、合計3件の事業立ち上げを目指す。</p> <p>また、高齢者活動支援センターにおいて、要支援1・2等の認定を受けた高齢者宅を訪問し、掃除・洗濯・調理補助・買い物代行等の生活援助サービスを提供する訪問型サービスAの事業所として、シルバー会員を活用した生活援助等のサービスを拡大していく。</p>				
7	外部有識者 からの意見	<p>・KPIよりシルバー人材センターや老人クラブの登録人数が減少している要因を分析すること。</p>				

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち					
2	方向性	3-3	3-3圏域で自立した生活を元気に送り返ける					
3	主な取組	3-3-1	健康寿命の延伸に向けた取組					
		3-3-2	地域で自立した生活をおくり続けるための取組の推進					
		3-3-3	バリアフリー化等の推進					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		3-3-a	特定健診受診率	29.6%	H26	30.3%	60%	H31
		3-3-b	特定保健指導実施率	40.3%	H26	62.8%	60%	H31
		3-3-c	介護保険の認定率	16.9%	H26	16.9%	21.3%	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
		<p>地域で自立した生活を送り返けるための取組として、増加が著しい単身高齢者や高齢者世帯の実態、緊急連絡先の把握を行うとともに、名簿を民生委員へ提供し、見守り活動の強化を図った。</p> <p>特定健康診査受診率については、「データヘルス計画（※）」に基づき、対象者への勧奨ハガキの送付や未受診者への電話勧奨を実施することで受診率の向上に努めた。</p> <p>バリアフリー化等を推進するため、バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づき、旅客施設を中心とする地区や高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区の生活関係経路のバリアフリー化に取り組んだ。</p> <p>※データヘルス計画とは、全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータを分析し、それに基づく加入者の健康寿命の延伸を目指した保健事業の実施計画。</p>						
6	今後の 方向性	<p>介護予防の取組を一層推進するため、「栄養改善」や「うつ・閉じこもり予防」に関する内容を新たに盛り込んだ「元気！いばらき体操3」を制作する。</p> <p>特定健康診査受診率の向上を目指すため、データヘルス計画に基づき対象者を抽出し、受診勧奨を実施するとともに、次期データヘルス計画の策定過程において、受診勧奨の対象及び方法等について検討する。</p> <p>「障害福祉フェスタ」「生涯学習出前講座」等により、障害者への理解を深めるとともに、バリアフリーに関する情報提供を通じて、円滑な移動実現をめざす。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIに介護の保険認定率が上昇設定になっているが、指標上上昇していくことは要介護者が増えることを意味しているが方向性としてよいか。</li> </ul>						

## 基本目標 4

魅力と活力あふれるまち

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	方向性	4-1	人口動態を支える魅力と機能を備えた拠点の形成					
3	主な取組	4-1-1	都市拠点（中心市街地）の魅力と機能の充実					
		4-1-2	観光あるき事業の推進					
		4-1-3	シビックセンター環状道路の一方通行化によるにぎわいの創出と回遊性の高い道路空間形成					
		4-1-4	地域拠点の魅力と機能の充実					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		4-1-a	市内駅乗降客数（年間）	278,340 人/日	H25	298,225 人/日	増加	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>中心市街地の活性化を図るため、「茨木市中心市街地活性化基本計画」の策定に引き続き取り組み、市民の生活行動及び活性化に向けた意見・要望等を把握するアンケートを実施するとともに、公共空間を活用する社会実験を実施し、事業の掘り起こしに努め、中心市街地の活性化に有効な事業手法について検討を行った。</p> <p>JR茨木駅および阪急茨木市駅西口駅前再整備については、JR茨木駅西口駅前周辺整備では、平成29年1月に駅前ビル管理組合の臨時総会において、建替え推進が決議されたほか、阪急茨木市駅西口駅前周辺整備では、都市計画決定に向け、再整備計画の内容等について、管理組合、事業パートナー等と連携し取り組んだ。</p> <p>（仮称）JR総持寺駅整備は、平成30年春の開業に向けて、駅舎・ホーム等の工事を進めるとともに、駅名公募により、市民や利用者に対する親しみや愛着を育むなど、市民意識の醸成に努めた。</p> <p>次代を担う若手芸術家を発掘し、発表の場を提供する「HUB-IBARAKI ART PROJECT」を開催し、若手芸術家の育成に努めるとともに、優れた作品を市役所庁舎をはじめとする公共施設に設置し、市民に身近に感じてもらう機会を提供した。</p>					
6	今後の 方向性	<p>中心市街地エリアのランドデザインや阪急・JRの両西口駅前周辺整備について、庁内関係課と協議調整を行い、検討を進める。またJR総持寺駅開業に向けて、駅前広場やアクセス道路及び周辺道路の早期整備を図るとともに、新駅を中心とする賑わい創出に向けた調整を行う。</p> <p>未来へ向けた文化芸術の担い手の育成する「HUB-IBARAKI ART PROJECT」等の芸術イベントは、イベントを協働で推進する人材が不足しているため、実行委員会を再編し、芸術イベントを協働で推進する人材の育成に努める。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両駅前の再整備について、市及び地権者等の役割を整理すること。</li> <li>・施設管理において、商店では自己更新型の管理がなされている。両駅前の再整備においても、同様にその手法がないか検討してみるかどうか。</li> <li>・「HUB IBARAKI ART PROJECT」の協働に担い手については、市民を実行委員会の一員としてみるかどうか。</li> <li>・協働等で実施するイベントにおいて、市が税金を投入することを控えることも戦略である。市が主体となって事業を実施するのではなく、市民等が主体となって事業を実施するような仕掛けづくりを考える視点が必要である。</li> </ul>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち						
2	方向性	4-2	大学・研究機関が多く立地しているというポテンシャルを最大限に活用						
3	主な取組	4-2-1	地域・大学の連携支援						
		4-2-2	産学連携に取り組みやすい環境づくり						
		4-2-3	新規開業者の創業促進と成長支援						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28		目標	
		4-2-a	産学連携スタートアップ支援事業を活用した事業（製品・技術用）の実用化数	1件	H27	2件	7件	H31	
		4-2-b	創業支援ネットワークによる創業実現者数	57人	H26	60人	95人	H32	
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>産学連携スタートアップ支援事業では、平成28年度の公募に際し、彩都バイオインキュベーション施設の入居者をはじめ、ライフサイエンス関連企業を対象とした「彩都バイオライフサイエンスセミナー」で事業の紹介を行ったことから、市内事業者から4社の利用があり、内2件の事業については実用化へつながり、一定の成果がある。</p> <p>平成28年度の創業実現者数は60人と、平成27年度の実績である73人から13人減少はしたが、新たに女性向け起業セミナーを2回開催し、延べ34人の参加があったことから起業希志志望者の掘り起こしができた。また、起業に対する学生の意識やニーズを把握するため、市内大学との情報交換を7回実施した。</p>						
6	今後の 方向性	<p>創業支援については、今後も引き続き、市・商工会議所・金融機関をはじめとした関係機関と連携して創業者支援を行うとともに、創業者の掘り起こしや、段階に応じたスキルアップに向けて、セミナー等の事業を実施する。</p> <p>また世代に特化した起業支援として、学生向けセミナーの開催及び女性向けセミナーの拡充を行うとともに、起業や事業拡大に対する支援策の拡充を行う。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<p>・大学と地元企業をマッチングする「コーディネーター」の役割が必要。大学が得意とする研究分野と企業情報をつなげる人材を支援することで、より成果が上がる。医療専門の単科大学については、商工会議所と連携し、コーディネートをすることが有効である。</p> <p>・大学生対象起業セミナーにおいては、大学が独自に実施している場合が多いため、特に土日は大学が休みであることから、市独自の実施では集客が見込めない可能性がある。よって、授業等でタイアップ、単位取得のインセンティブ、または大学生にくくらず、「若い世代」として括り、実施してはどうか。</p>							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち						
2	方向性	4-3	彩都地域における産業集積の促進						
3	主な取組	4-3-1	彩都等における成長産業等の集積促進や新たなまちづくり						
		4-3-2	国土軸へのアクセスなど地域特性をいかした企業等の誘致促進						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）			基準		H28	目標	
		4-3-a	バイオインキュベーション施設入居企業数	30社	H27	33社	維持	H31	
		4-3-b	彩都施設人口調査（雇用者数）	2,300人	H27	-	増加	H31	
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している						
			<p>彩都西部地区や中部地区については、企業立地が着実に進んでおり、東部地区の先行エリアにおいても民間事業者による土地区画整理事業が進められ、一部で企業誘致が決定している。 また、バイオインキュベーション施設の入居企業に対する賃料補助制度の活用により、入居企業が増加した。</p>						
6	今後の 方向性	<p>彩都西部地区は、ほぼ企業誘致が完了し、中部地区についても、府・市有地の公募が行われ、ほとんどの土地で企業進出が決定している。東部地区の残エリアについては、成長産業等の企業集積を目指し、造成工事が進められるとともに、区画整理事業の実現に向けて、地権者の合意形成や民間事業者の参画、関係機関との協議・調整などの取組の支援を行う。</p>							
7	外部有識者 からの意見	特になし。							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	方向性	4-4	空き家や公共施設更新に伴う取組					
3	主な取組	4-4-1	空き家対策、空き店舗対策の推進					
		4-4-2	公共施設等の老朽化に対する適切な対応					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		4-4-a	空き店舗利活用件数	15件	H26	延べ48件	延べ75件	H31
		4-4-b	公共施設等の長寿命化対策費	9億3千万円	H27予算	11億9千万円	11億円確保	各年
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している					
			<p>創業促進事業や、中小企業経営アドバイザーの相談等により、空き店舗に出店する創業や事業拡大に対して支援を行ったことから空き店舗の利活用件数が進んでいる。</p> <p>また、空き店舗を活用した市内農産物のアンテナショップの開設については、空き店舗の状況把握と、農業者の取組意向の把握に努め、年間を通じて開設するための課題の洗い出し、出店の可能性を検討した。</p> <p>空き家対策については、増加する空き家の適正な管理や有効活用等、空き家対策を推進するため、「茨木市空家等対策協議会」を設置し、空き家の実態調査結果や庁内検討組織による検討内容を踏まえ「茨木市空家等対策計画」を策定した。</p> <p>また、公共施設については、「茨木市公共施設等マネジメント基本方針」を策定し、公共施設等の保全・更新等に係る基本的な考え方を定めるとともに、国の策定要請に対応したほか、固定資産台帳の整備や施設の一元化等のため、「公有財産管理運用システム」を構築した。</p>					
6	今後の 方向性	<p>空家活用の推進に向けて、活用可能な空家の情報集約や、所有者と活用希望者の意向把握、活用方法に関するセミナー等を開催する。また、今後は、上記の支援を継続するとともに、地元産農産物のアンテナショップや創業希望者のチャレンジの場などとしての活用についても検討を進める。</p> <p>また、公共施設の老朽化に対応するため、「（仮称）茨木市公共施設白書」を策定し、（市民に分かり易い）公表に努めるほか、平成30年度予定の施設評価の制度設計を行う。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンテナショップについて、頑張る人は自力で実施している。事業実施の際に、市が当初のみ支援することはいいが、自走化に向けて進めて行くことが大切である。</li> <li>空き家対策については、モデルを作ることが重要。市民に「空き家対策」のイメージをもってもらうことが大切である。</li> </ul>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち						
2	方向性	4-5	公共交通をはじめとした交通環境の整備						
3	主な取組	4-5-1	茨木市総合交通戦略の推進						
		4-5-2	都市計画道路整備、道路新設・改良の推進						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28		目標	
		4-5-a	バス利用者数	24,700人/日	H24	25,500人/日	維持	H31	
		4-5-b	市内の移動に対する満足度	49.8%	H24	-	増加	H31	
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>移動しやすいと実感できる交通体系づくりを目指すため、移動に関する実態や公共交通に対するニーズ把握に向けた市民アンケートを実施するとともに、利便性向上に向けた施策の検討を行った。昨年度から引き続き、茨木市自転車利用環境整備計画に位置付けられている自転車ネットワーク優先整備対象路線において、自転車レーンの整備を行った。</p> <p>しかし、自転車ネットワーク路線内の幅員が狭い道路に対して自転車交通空間の整備が困難となっていること、また自転車路線以外の生活道路に対する安全対策が不足していることが課題である。</p>						
6	今後の 方向性	<p>引き続き総合交通戦略で策定した短・中期施策の実施及び関係事業者と共に施策の進行管理を行う。</p> <p>路線バス利用者の利便性向上と路線バスの利用促進を目的に、バスマップの作成及び配布等、利便性向上、利用促進につながる取組みを行う。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着実に事業が実施してされていると思う。また今後の方向性において、茨木市はバス路線が充実しているため、市民に認識してもらうことが必要のため、バスマップの作成は良い。</li> <li>・自転車レーンのハード整備については、茨木市は進んでいると思うので、今後この自転車レーンの活用をしてもらえるよう、ソフト事業の充実に努めていただきたい。</li> <li>・茨木市は、24H営業のレンタカー屋、また天王寺、新大阪に続いて駅のそばにレンタサイクル（「エキデン」）がある。都市に次いで市にあるメリットを活かし、「エキデン」を活用した取組を進めてみてはどうか。</li> </ul>							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	方向性	4-6	地域特性をいかした産業施策と雇用促進					
3	主な取組	4-6-1	幹線道路沿道の土地利用の推進					
		4-6-2	商工業振興補助、小売店舗改築（改装）補助事業					
		4-6-3	産業活性化や高付加価値化等につながる取組の促進					
		4-6-4	企業立地支援					
		4-6-5	市内事業者の事業活動への支援の充実					
		4-6-6	雇用の促進					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		4-6-a	産業活性化プロジェクト促進事業を活用した高付加価値な製品・商品の開発件数	2件	H27見込	2件	5件	H32
		4-6-b	研究施設、生産施設、物流施設等の新規立地件数	0件	未実施	5件	6件	H31
		4-6-c	正規雇用促進奨励金により正規雇用につながった人数	20人	H25	21人	維持	H31
5	H28の主な取組の成果と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>産業の活性化については、市内商店街のヒアリングを実施し、各団体の現状や今後の意向の把握に努めた。また、商店街を対象とした補助支援制度の周知を図り、防犯カメラや案内看板の設置等の環境整備や販売促進に資する取組に対して、11件の支援を行った。</p> <p>雇用の促進の事業である「正規雇用奨励金」については、市広報誌やホームページをはじめ、茨木商工会議所にも協力をいただき、本奨励金制度の周知に努めたため、利用件数が増加し、雇用促進につながった。</p>					
6	今後の方向性	<p>商店街への出店支援や店舗等の情報発信を行うとともに、各商店街への状況把握に努め、必要な支援の検討を行うことで、商店街の活性化や魅力ある店舗拡大に努める。</p> <p>企業立地支援については、企業立地促進奨励金制度を活用し、企業等の立地と設備投資の促進に努める。</p> <p>就労支援については、就職イベントの開催時期変更により参加対象者を拡大するとともに、関係機関と連携し、求職者に対する参加事業所の情報提供に努める。また、求職者の職業能力の向上を支援する。</p>						
7	外部有識者からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の活性化については、商工会議所と連携し、取組を検討することが必要ではないか。</li> <li>・企業支援については、企業を呼び込む支援策も必要だが、地元企業を逃がさない支援制度も必要ではないか。</li> <li>・雇用促進については、就労と若者の地元定着が必要であるため、地元企業を知る取組を検討してはどうか。</li> </ul>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	方向性	4-7	魅力発信の強化					
3	主な取組	4-7-1	シティプロモーションの推進					
		4-7-2	地域魅力アップイベント創出育成					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標	
		4-7-a	茨木市の魅力発信が「できていない」と回答した割合	43.1%	H27	-	下降	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している					
			<p>シティプロモーションの推進については、茨木市シティプロモーション基本方針に基づき、約2,700人の市民の思いや意見をもとに、「まちのイメージ形成」を図る上でもっとも重要と位置付けている本市ブランドロゴとメッセージを作成した。</p> <p>また、市の魅力を紹介した市勢要覧をはじめとする各種冊子の発行や、市ホームページのリニューアル及び魅力発信コンテンツの新設、広報誌のアプリ配信を実施し、魅力発信の充実を図った。</p>					
6	今後の 方向性	<p>シティプロモーションをより推進するため、主要駅周辺等に本市ブランドメッセージ（ロゴ）をデザインしたフラッグを設置するなど、ブランドメッセージの認知度を高めるとともに、市制施行70周年プレ事業と合わせて利活用し、市民の愛着と活動意欲の喚起につなげる。</p> <p>また、寄附者が「本市を応援したい」という想いを十分汲み取ることができるよう、早期にふるさと寄付金の使い道について選択できるようにするとともに、市制施行70周年事業の資金調達に向け、クラウドファンディングを検討する。</p> <p>市内の大規模イベントについては、さらに認知度を高めるため、メインターゲットを意識し、効果的な情報発信による周知広報に努める。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<p>・現在北おおさか信用金庫と追手門学院大学が連携し、7市1町の「北摂エリアマッププロジェクト」を実施し、学生目線で各まちのいいところをまとめた動画を作成、プロモーションを行っている。</p> <p>このような取組を市においても産官学連携の分野において連携していただき、市ホームページのバナー等を活用し、魅力発信を行ってみるのはいかがでしょうか。</p>						

## 基本目標 5

個性・資源をいかした北部地域の  
活性化

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化						
2	方向性	5-1	魅力発信機能の強化						
3	主な取組	5-1-1	シティプロモーションの推進						
		5-1-2	北部地域の魅力向上の検討・取組						
		5-1-3	移住促進情報の発信						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）			基準		H28	目標	
		5-1-a	茨木市の魅力発信が「できていない」と回答した割合		43.1%	H27	-	下降	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している						
			<p>北部地域の魅力向上の検討と取組について、北部地域の魅力冊子「いばきた」と阪急バスの「環境（エコ）定期券制度」をタイアップした取組を実施するとともに、府や観光協会と連携したサイクリングマップの作成や、安威川フェスティバルのなどのイベントを活用し、北部地域の魅力発信に努めた。</p> <p>また、「阪急京都線沿線観光あるき」のコース見直しを行い、新たに北部地域をめぐるコース（隠れキリシタンの里コース）を設定した結果、平成27年度の参加者36人に対し、H28年度は67人の参加者増へに繋がった。</p>						
6	今後の 方向性	<p>シティプロモーションの推進については、ブランドメッセージを活用するとともに、市ホームページにおける魅力発信コンテンツ等の充実を図るなど、引き続き魅力発信に努める。</p> <p>北部地域の魅力向上については、北部地域に点在する魅力や資源のより一層のネットワーク化が進むよう、自転車を活用したイベントを実施するとともに、安威川ダムにおいて、周辺整備において民間活力を導入した事業展開を検討するなど、個性・資源をいかした北部地域の活性化に努める。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在北おおさか信用金庫と追手門学院大学が連携し、7市1町の「北摂エリアマッププロジェクト」を実施し、学生目線で各まちのいいところをまとめた動画を作成、プロモーションを行っている。</li> <li>・このような取組を市においても産官学連携の分野において連携していただき、市ホームページのバナー等を活用し、魅力発信を行ってみるのはどうか。（4-7 魅力発信の強化における外部有識者からの意見を再掲）</li> <li>・北部の魅力という点では、追手門学院大学は山手にある大学。北部地域をフィールドに活動している学生がいるかもしれないので、その学生たちと共に魅力発掘をする取組を検討するのも手段である。</li> </ul>							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化					
2	方向性	5-2	交流人口獲得に向けた取り組み					
3	主な取組	5-2-1	既存施設等を活用した交流人口の獲得					
		5-2-2	自然等を活用した交流人口の獲得					
		5-2-3	交通環境の整備による交流人口の獲得					
		5-2-4	北部地域の魅力向上の検討・取組					
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準	H28	目標		
		5-2-a	里山センター利用者数	5,501人 H24-26 平均	13,163人	増加	H31	
		5-2-b	キリシタン遺物史料館来館者数	6,351人	H26	6,292人	増加	H31
		5-2-c	忍頂寺スポーツ公園利用者数	36,019人	H24-26 平均	36,694人	増加	H31
		5-2-d	青少年野外活動センター利用者数	11,208人	H26	11,707人	増加	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>既存施設を活用した取組として、里山センターでは、市民に自然を身近に感じてもらい、同センターや里山保全活動のことなどをもっと知ってもらうことを目的として里山まつりを開催し、多くの来場者があった。</p> <p>また、北部の歴史・文化的遺産の一つである隠れキリシタンの『天使讃仰図』をはじめとする絵画系遺物7点の高解像度撮影及び複製品製作を行うとともに、キリシタン遺物資料館において企画展を開催した。</p>					
6	今後の 方向性	<p>既存施設や北部の自然等を活用した取組として、北辰中学校跡地を里山ふれあいオートキャンプ場として活用し、北部地域の活性化やニーズ把握に努める。</p> <p>また、北部地域の魅力向上の取組については、北部地域に点在する魅力や資源のより一層のネットワーク化が進むよう、自転車を活用したイベントを実施するとともに、安威川ダムの周辺整備を民間活力を導入した事業展開を検討するなど、個性・資源をいかした北部地域の活性化に努める。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在北おおさか信用金庫と追手門学院大学が連携し、7市1町の「北摂エリアマッププロジェクト」を実施し、学生目線で各まちのいいところをまとめた動画を作成、プロモーションを行っている。（5-1 魅力発信機能の強化）</li> <li>このような取組を市においても産官学連携の分野において連携していただき、市ホームページのバナー等を活用し、魅力発信を行ってみるのはどうか。（4-7 魅力発信の強化における外部有識者からの意見を再掲）</li> <li>・北部の魅力という点では、追手門学院大学は山手にある大学。北部地域をフィールドに活動している学生がいるかもしれないので、その学生たちと共に魅力発掘をする取組を検討するのも手段である。（5-1 魅力発信機能の強化）</li> </ul>						

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化						
2	方向性	5-3	6次産業化や里山的景観活用などの取組						
3	主な取組	5-3-1	都市住民と遊休農地とのマッチングの推進						
		5-3-2	農業の6次産業化の支援						
		5-3-3	特産品やブランドづくり、アンテナショップなどの支援						
		5-3-4	北辰中学校跡地活用推進						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）			基準		H28	目標	
		5-3-a	農商工連携に対して意欲のある事業者のマッチング件数		0件	未実施	0件	2件	H32
		5-3-b	マッチングによる新たな商品、サービスの開発件数		0件	未実施	0件	2件	H32
		5-3-c	見山の郷の来場者数		106,000人	H26	101,554人	増加	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>遊休農地については、農業委員会等と連携した農地中間管理事業の活用によって、農地3筆約54aにおいて2件の新たな担い手を確保するとともに、市民等を対象とした農業体験ファームでは、10名の受講者を集めた。また、集落営農組織化に対する補助支援を4地区に行うなど、担い手の確保に努めた。さらに、農業経営サポートとして新規就農者2名に対して国の給付金を支給した。</p> <p>北辰中学校跡地利用については、PFI事業可能性調査結果を庁内で検討し、地元へ報告をした。</p> <p>また、農商工連携に意欲のある事業者とのマッチングや新たな商品開発については、マッチングの前段として、農業者と事業者（飲食店経営者等）との情報交換・交流促進の場の設定に向け、事業の検討や関係者へのヒアリングを行った。</p> <p>アンテナショップの常設に関しては、空き店舗の状況把握と、農業者の取組意向の把握に努め、年間を通じて開設するための課題の洗い出し、出店の可能性について検討した。</p>						
6	今後の 方向性	<p>持続的な農業の推進のため、担い手の確保に向け、農業委員会等と連携した農地中間管理機構を活用した事業の実施だけでなく、準農家制度等を利用した農業体験ファーム受講者への就農支援や集落営園に対する農業用機械貸付事業を推進する。</p> <p>市内農産物のアンテナショップの開設も含め、広く農商連携の取組についての可能性を探るため、販路を求める農業者と、事業者や飲食店経営者等との交流機会を設定する。</p> <p>北辰中学校跡地の活用については、オートキャンプ場として暫定的な利用を検討する。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<p>・市外の人に対してサービスを提供することは、税の使途の懸念事項ではあるため検討が必要であるが、農業体験ファームの対象者（市民、市内在勤・在学）を市外の人も加えても良いのではないかと。</p>							

## 基本目標 6

安全安心にいつまでも暮らせるまち

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち				
2	方向性	6-1	安心して子育てできるまちの推進				
3	主な取組	6-1-1	児童・生徒の安全対策				
		6-1-2	地域の安全確保				
		6-1-3	子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供				
		6-1-4	「地域の子どもは地域で見守り、育てる」活動を行うための支援				
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）			基準	H28	目標
		6-1-a	通学路防犯カメラ設置・稼働台数		0台 未実施	320台	320台 H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している				
			<p>児童・生徒の安全対策については、平成27年度から引き続き、ボランティア巡視員の見守り活動により、児童・生徒の登下校中の安全確保に努めた。</p> <p>地域では、自治会が防犯カメラ設置補助制度を活用し、新たに18台の防犯カメラが設置された。また、平成27年度から引き続き、自治会が管理する防犯灯を対象として、LED防犯灯に転換しようとする場合及び維持管理費用について補助金交付を行い、地域の安全確保に努めた。</p>				
6	今後の 方向性	<p>通学路見守り用カメラの設置については、全小学校区にカメラの設置を行った。さらなる増設要望があるが、今後整備した通学路見守り用カメラの利用状況と効果の検証を行い、その結果を踏まえて、検討を行う。</p> <p>自治会におけるLED防犯灯の転換補助については、引き続き継続して実施することで、さらなる転換を促し、地域における防犯環境の向上に努める。</p> <p>また、引き続きボランティア巡視員による見守り活動や通学路の安全点検とともに、幅広い年代の地域住民による子どもを見守るネットワーク作りを推進する。</p>					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯カメラの設置について、増設を検討している場合、費用対効果を意識すること。</li> <li>カメラは人に危険が起きたとしても、助けることができない。最近では、人の目による安心・安全の取組を進める自治体もあるため、参考にしてはどうか。</li> </ul>					

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち						
2	方向性	6-2	災害に備える						
3	主な取組	6-2-1	防災体制の強化						
		6-2-2	防災意識の高揚を図る						
		6-2-3	施設等の耐震化を進める						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標		
		6-2-a	一時避難地防災機能強化		2カ所	H26	3カ所	14カ所	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>一時避難地の防災施設を3公園に設置するとともに、避難行動用支援者名簿の民生委員への配付、新たな自主防災組織の結成（1団体）を通じて、防災体制の強化に努める。また、全域防災訓練を平日に実施し、学校、企業等との連携が図られ、若年層への効果的な啓発を実施した。</p> <p>公共施設の耐震化については、平成28年度の耐震化率は95.6%に達したことにより、茨木市住宅・建築物耐震改修促進計画の目標値を達成したが、更なる耐震化の向上に努める。</p>						
6	今後の 方向性	<p>一時避難地防災機能強化のため、引き続き、平成29年度は、平成28～31年度までの4か年で計画的に12か所の防災施設の整備を行う。</p> <p>自主防災組織の高齢化・固定化が進んでいるため、女性や若年層を含めた幅広い世代の参画をめざし、防災訓練や防災イベントを実施する。</p> <p>また、浸水被害の最小化を図るため、下水道施設の雨水管渠等の整備を進めるとともに、雨水基本構想に基づき、段階的（10年間）な雨水整備計画を行う。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災公園の整備を進めるとともに、防災公園を認識してもらえるような啓発活動を行うこと。</li> <li>・自主防災組織の幅広い世代（特に女性や若者）の参画をめざす場合、「楽しみ」のあるイベントへと工夫すること。</li> </ul>							

総合戦略効果検証シート（方向性）

1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち						
2	方向性	6-3	消防・救急・医療体制の充実						
3	主な取組	6-3-1	応急手当の普及啓発活動						
		6-3-2	消防・救急体制の強化						
		6-3-3	市内医療体制の充実						
4	KPI （重要行政 評価指標）	KPI（重要行政評価指標）		基準		H28	目標		
		6-3-a	市内救急搬送率		39.5%	H25	46.7%	上昇	H31
5	H28の主な 取組の成果 と課題	評価	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>消防体制の充実強化については、職員の災害対応力向上のために消防学校等の訓練施設や市内の事業所、河川等での実践的な訓練を15回実施し、消防職員延べ544人が参加することにより、一定の災害対応力の向上が図れ、救急体制については、高齢化の進展による救急需要の増加に対応するため、救急隊員の資質の向上と医療機関との連携により、円滑な救急活動を努めるとともに、救急安心センター（#7119）の周知を行った。</p> <p>また、応急手当の普及啓発活動では、救急隊が現場到着するまでに市民の応急手当が行われるように、各種救命講習会を実施した。</p> <p>市内医療体制の充実については、市内搬送率50%を目指し、市内二次救急の補助制度を取組を進めてきたところであるが、市内救急搬送率は一定向上をみたものの、救急患者が一定数を超えると病院の応急により専門医師の救急診療に速やかにつなぐことができないという課題がある。</p>						
6	今後の 方向性	在宅から救急まで包括的に提供できる医療体制づくりを進めるとともに、三島二次医療圏における新たな救急医療体制の構築に向け、関係市町、関係機構等との連携を進める。							
7	外部有識者 からの意見	・救急体制は受け入れ量が大切な視点。事業を考える中で、最終目標、最終目標に至るまでの段階的なプロセス知り、取り組むことが大切。							